



平成18年5月17日

各 位

株式会社T & Dホールディングス
 (コード番号 8795 東証・大証第一部)
 太陽生命保険株式会社
 大同生命保険株式会社
 T&Dフィナンシャル生命保険株式会社

「平成18年3月期決算」のお知らせ

T & D保険グループ (T & Dホールディングス、太陽生命、大同生命、T & Dフィナンシャル生命) の平成18年3月期 (平成17年4月1日～平成18年3月31日) の決算について下記のとおりお知らせいたします。詳細は、次ページ以降をご参照ください。

主要業績

- 生命保険会社3社合算の契約業績 (個人保険・個人年金保険) は、
 新契約高は、7兆2,938億円、前年から3.3%の減少、
 解約失効高は、5兆1,027億円、前年から4.7%の増加、
 保有契約高は、60兆2,650億円、前年度末から1.2%の増加となりました。
 なお、太陽生命、大同生命ともに保有契約高が過去最高となりました。
- 生命保険会社3社合算の保険料等収入は、1兆9,023億円、前年から5.7%の増加となりました。

損益関係 (T & Dホールディングス連結)

- 経常収益は2兆4,442億円、前年から5.5%の増加、
 - 経常利益は1,368億円、前年から25.7%の増加、
 - 当期純利益は355億円、前年から4.3%の減少となりました。
- 経常利益が増加したのは、主にキャピタル損益が改善したことによります。一方、当期純利益が減少したのは主に、価格変動準備金繰入額等の特別損失の増加によります。

契約者配当

- 個人保険の契約者配当は、太陽生命・大同生命で増配します。

株主配当

- 1株当たり年間配当金は55円と、前期より10円増配を予定しています。

【お問合せ先】

株式会社T & Dホールディングス	広 報 部	熊谷 寛	TEL 03-3231-8685
太陽生命保険株式会社	広 報 室	長嶺 秀一	TEL 03-3231-8634
大同生命保険株式会社	広 報 課	市村 秀史	TEL 03-3281-1148
T & Dフィナンシャル生命保険株式会社	広 報 課	大石 孝之	TEL 03-3593-8100

[契約業績（個人保険・個人年金保険）]

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
新契約高	72,938	3.3%減	28,383	1.8%減	42,927	1.4%減	1,627	45.7%減
解約失効高 (解約失効率)	51,027	4.7%増	16,440 (9.69%)	15.4%増 0.83ポイント上昇	30,400 (7.66%)	0.4%増 0.04ポイント低下	4,186 (14.37%)	1.5%減 0.81ポイント上昇
保有契約高	602,650	1.2%増	175,915	3.7%増	400,080	0.8%増	26,654	8.5%減
新契約年換算保険料	1,376	0.7%増	417	10.1%減	828	1.1%増	130	56.9%増
うち医療保障・ 生前給付保障等	184	5.8%減	142	1.0%増	39	3.4%増	2	82.7%減
保有契約年換算保険料	14,540	1.1%減	6,951	5.0%減	6,847	2.1%増	741	8.5%増
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,778	0.3%増	1,094	3.2%増	606	1.7%減	77	18.3%減

(注)新契約高には転換による純増加高を含みます。

< 3社合算 >

- ・新契約高は、7兆2,938億円、前年から3.3%減少しました。
- ・解約失効高は、5兆1,027億円、前年から4.7%増加しました。
- ・保有契約高は、60兆2,650億円となり、前年度末から1.2%増加しました。

○太陽生命

- ・新契約高は、2兆8,383億円、前年から1.8%の減少。
うち主力の終身保険「太陽生命の保険組曲」の新契約高は、2兆2,411億円、前年から4.6%の増加。
- ・解約失効高は、1兆6,440億円。解約失効率は、9.69%、前年から0.83ポイントの上昇。
これは、保障性商品中心の販売により1件あたり保険金額が高い契約の保有契約高占率が大きくなった結果、解約失効となる契約の1件あたりの保険金額も大きくなっているため。ただし、解約失効件数及び解約返戻金支払額は減少。(解約失効件数：24万件→21.8万件、解約返戻金1,013億円→952億円)
- ・保有契約高は、17兆5,915億円、前年度末から6,252億円、3.7%の増加。(5年連続過去最高)
うち個人保険は、13兆5,720億円、前年度末から8,655億円、6.8%の増加。
- ・保有契約年換算保険料は、6,951億円、前年から5.0%の減少。
うち医療保障・生前給付保障等の保有契約年換算保険料は、1,094億円、前年から3.2%の増加。

○大同生命

- ・新契約高は、4兆2,927億円、前年から1.4%の減少。
うち、主力の個人定期保険は、4兆807億円、前年から1.1%の減少。
- ・解約失効高は、3兆400億円、解約失効率は、7.66%。
- ・保有契約高は、40兆80億円、前年度末から3,138億円、0.8%の増加。(2年連続過去最高ならびに初めて40兆円の台大達成)
また、このうち主力の個人定期保険の保有契約高は、35兆9,336億円、前年度末から4,539億円、1.3%の増加。
- ・保有契約年換算保険料は、6,847億円、前年から2.1%の増加。
うち医療保障・生前給付保障等は、606億円、前年から1.7%の減少。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・新契約高は、1,627億円、前年から45.7%の減少。これは、営業職員チャネルのグループ内再編にともなう個人保険新契約販売停止による。
なお、変額個人年金保険の新契約高は、銀行窓販が好調に推移したため、1,286億円、同111.6%の増加。
- ・保有契約高は、2兆6,654億円、前年度末から2,476億円、8.5%の減少。
うち変額個人年金保険は4,595億円、前年度末から2,137億円、86.9%の増加。
- ・保有契約年換算保険料は、741億円、前年から8.5%の増加。
うち医療保障・生前給付保障等は、77億円、前年から18.3%の減少。

[損益関係]

(単位：億円)

	T & Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当連結会計年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
経常収益	24,442	5.5%増	10,764	5.7%減	10,624	0.3%増	3,123	108.0%増
うち保険料等収入	19,023	5.7%増	8,230	4.4%増	8,711	1.5%減	2,081	65.2%増
うち資産運用収益	4,656	38.5%増	1,980	11.4%増	1,806	23.2%増	922	601.0%増
経常費用	23,074	4.5%増	10,294	7.7%減	9,630	0.0%減	3,246	99.0%増
うち保険金等支払金	17,460	4.4%減	8,570	8.0%減	7,918	1.6%減	971	8.9%増
うち資産運用費用	1,031	12.1%増	548	8.5%減	466	41.9%増	52	1,175.2%増
経常利益(△損失)	1,368	25.7%増	469	80.2%増	994	3.8%増	△122	—
特別利益	18	55.2%減	4	94.3%減	9	89.0%減	0	69.5%減
特別損失	393	143.8%増	198	156.3%増	165	116.8%増	26	311.6%増
契約者配当準備金繰入額	444	1.1%減	159	18.7%増	273	10.6%減	12	22.7%増
税引前当期純利益(△損失)	549	5.8%増	115	3.1%減	565	14.8%減	△161	—
法人税及び住民税等	192	31.2%増	52	10.3%増	174	47.3%減	△47	—
当期純利益(△損失)	355	4.3%減	63	12.0%減	390	17.4%増	△114	—

(注) 法人税及び住民税等は、法人税等調整額を含んでおります。

< T & Dホールディングス連結 >

- ・ 経常収益は、2兆4,442億円、前年から5.5%増加となりました。
 - ・ 経常利益は、1,368億円、前年から25.7%増加となりました。
 - ・ 当期純利益は、355億円、前年から4.3%減少となりました。
- 経常利益が増加した一方、当期純利益が減少したのは主に、価格変動準備金繰入額等の特別損失の増加による。

○太陽生命

- ・ 保険料等収入は、主に団体年金保険料の増加により、8,230億円、前年から4.4%の増加。
- ・ 資産運用収益は、主に有価証券売却益の増加により、1,980億円、前年から11.4%の増加。
- ・ 保険金等支払金は、主に満期保険金の支払金額の減少により、8,570億円、前年から8.0%の減少。
- ・ 資産運用費用は、主に金融派生商品費用の減少により、548億円、前年から8.5%の減少。
- ・ 経常利益は、469億円、前年から80.2%の増加。
- ・ 特別利益は、主に平成16年度で計上した親会社株式売却益がなくなったことにより、4億円、前年から94.3%の減少。
- ・ 特別損失は、主に減損損失の計上や価格変動準備金の繰入れを法定基準以上に行ったことなどにより、198億円、前年から156.3%の増加。
- ・ 当期純利益は、63億円、前年から12.0%の減少。

○大同生命

- ・ 保険料等収入は、主に販売抑制による一時払保険料の減少により、8,711億円、前年から1.5%の減少。
- ・ 資産運用収益は、主に特別勘定資産運用益の増加により1,806億円、前年から23.2%の増加。
- ・ 保険金等支払金は、主に団体年金の解約返戻金の減少により、7,918億円、前年から1.6%の減少。
- ・ 資産運用費用は、主に金融派生商品費用の増加により、466億円、前年から41.9%の増加。
- ・ 経常利益は、994億円、前年から3.8%の増加。
- ・ 特別利益は、主に平成16年度で計上した親会社株式売却益がなくなったことにより、9億円、前年から89.0%の減少。
- ・ 特別損失は、主に価格変動準備金の繰入れを法定基準以上に行ったことにより、165億円、前年から116.8%の増加。
- ・ 当期純利益は、390億円、前年から17.4%の増加。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・保険料等収入は、主に変額個人年金保険の新契約増加により、2,081億円、前年から65.2%の増加。
- ・資産運用収益は、主に特別勘定資産運用益の増加により922億円、前年から601.0%の増加。
- ・保険金等支払金は、主に解約返戻金の増加により971億円、前年から8.9%の増加。
- ・資産運用費用は、主に変額個人年金保険の最低保証リスクに対応するヘッジ損（金銭の信託運用損）の増加により、52億円、前年から1,175.2%の増加。
- ・経常損失は、主に営業権償却（65億円）、逆ざやなどにより、122億円。（営業権の償却は平成18年3月期で終了。）
- ・特別損失は、主にT&D保険グループ内の販売チャネル再編に伴う経費により、26億円、前年から311.6%の増加。
- ・当期純損失は、114億円。上記の経常損失・特別損失に加え、連結納税による受入額減少のため前年の純利益50億円から164億円減少。

[その他の指標等]

(単位：億円)

	3 社合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
基礎利益	1,272	2.0%減	381	12.9%増	961	6.4%減	△70	—
逆ざや額	722	96 増	385	6 減	293	99 増	43	3 増

(単位：億円)

	3 社合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減
ソルベンシー・マージン比率			1,045.2%	179.5ポイント上昇	1,254.4%	217.2ポイント上昇	1,947.7%	1,226.0ポイント上昇
実質純資産	18,844	7,094 増	7,575	2,933 増	10,623	3,927 増	645	233 増
有価証券差損益(一般勘定)	10,530	5,982 増	4,666	2,795 増	5,877	3,231 増	△13	44 減
うち公社債	△124	1,381 減	△232	601 減	135	715 減	△26	64 減
うち株式	7,472	4,970 増	4,488	3,264 増	2,981	1,704 増	2	2 増
うち外国証券	331	23 減	245	15 増	85	46 減	0	7 増
うちその他の証券	2,509	2,130 増	190	148 増	2,309	1,973 増	10	9 増
うち金銭の信託	377	326 増	—	—	377	326 増	—	—
土地等の差損益	△96	128 増	△46	72 増	△49	56 増	—	—

- (注) 1. 有価証券差損益については、有価証券のうち時価のあるものを記載しています。また、金銭の信託内で保有する有価証券のうち、売買目的有価証券以外のものの差損益を記載しています。
2. 土地等の差損益については、太陽生命は鑑定評価額および公示価格等、大同生命は原則として鑑定評価額（重要性の低い物件等については公示価格）をもとに算出しています。

< 3 社合算 >

- ・基礎利益は、1,272億円となり、前年から2.0%減少しました。
- ・逆ざや額は、722億円となり、前年から96億円増加しました。
- ・実質純資産は、1兆8,844億円となり、前年度末から7,094億円増加しました。
- ・有価証券差損益は、1兆530億円となり、前年度末から5,982億円増加しました。

○太陽生命

- ・基礎利益は、主に保険関係損益の増加により、381億円、前年から12.9%の増加。
 - ・逆ざや額は、平均予定利率の低下等の影響により、385億円、前年から6億円の減少。
 - ・ソルベンシー・マージン比率は、1,045.2%、前年度末から179.5ポイントの上昇。
- 実質純資産は、7,575億円、前年度末から2,933億円の増加。
有価証券差損益は、4,666億円、前年度末から2,795億円の増加。
これらは主に株価上昇によるもの。

○大同生命

- ・基礎利益は、961億円、前年から6.4%の減少。
 - ・逆ざや額は、293億円となり、前年から99億円の増加。
これらは主に利息及び配当金等収入が減少したため。
 - ・ソルベンシー・マージン比率は、1,254.4%、前年度末から217.2ポイントの上昇。
- 実質純資産は、1兆623億円、前年度末から3,927億円の増加。
有価証券差損益は、5,877億円、前年度末から3,231億円の増加。
これらは主に株価上昇によるもの。

○T & Dフィナンシャル生命

- ・基礎利益は、主に営業権償却や、変額個人年金保険の新契約増加に伴う事業費の増加、最低保証リスクに係る責任準備金の繰入により、△70億円。
 - ・逆ざや額は、43億円、前年から3億円の増加。
 - ・ソルベンシー・マージン比率は、1,947.7%、前年度末から1,226.0ポイントの上昇。
- 実質純資産は、645億円、前年度末から233億円の増加。
これらは主に増資(320億円)によるもの。
有価証券差損益は、△13億円。前年度末から44億円の減少。

[平成19年3月期通期業績予想]

○T&Dホールディングス

平成19年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(連結)

(単位：億円)

	平成18年3月期実績	平成19年3月期予想	増減率(%)
経常収益	24,442	22,800	6.7%減
経常利益	1,368	1,050	23.2%減
当期純利益	355	260	26.8%減

(単体)

(単位：億円)

	平成18年3月期実績	平成19年3月期予想	増減率(%)
営業収益	136	160	17.6%増
経常利益	109	130	19.3%増
当期純利益	109	130	19.3%増

1株当たり年間配当金予想は55円です。

なお、上記の前提となる生命保険会社3社(単体)の平成19年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	太陽生命保険 株式会社	大同生命保険 株式会社	T&Dフィナンシャル生命 保険株式会社
経常収益	9,400 (12.7%減)	10,100 (4.9%減)	3,100 (0.7%減)
経常利益	300 (36.0%減)	860 (13.5%減)	△140 (14.8%増)
当期純利益	40 (36.5%減)	320 (17.9%減)	△120 (5.3%増)

(注) 括弧内は平成18年3月期からの増減率です。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。

以 上

(参考) 生命保険会社3社(単体)の平成19年3月期通期業績予想

(単位:億円)

	3社合算	太陽生命保険株式会社	大同生命保険株式会社	T&Dフィナンシャル生命保険株式会社
基礎利益	1,180 (7.2%減)	380 (0.3%減)	880 (8.4%減)	△80 (14.3%増)
保険料等収入	19,400 (2.0%増)	7,700 (6.4%減)	8,800 (1.0%増)	2,900 (39.4%増)
逆ざや額	730 (1.1%増)	370 (3.9%減)	320 (9.2%増)	40 (7.0%減)
新契約高	76,700 (5.2%増)	30,000 (5.7%増)	44,300 (3.2%増)	2,400 (47.5%増)
保有契約高	612,300 (1.6%増)	184,800 (5.1%増)	403,800 (0.9%増)	23,700 (11.1%減)
解約失効率(%)	—	9.5 (0.19ポイント低下)	7.7 (当期並み)	12.7 (1.67ポイント低下)

(注) 1. 括弧内は平成18年3月期からの増減率です。

2. 新契約高、保有契約高及び解約失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。また、新契約高には転換による純増加を含みます。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。

(参考) 生命保険会社3社の契約者配当

○太陽生命

①個人保険・個人年金保険

毎年お支払いする通常の配当金

費差配当・・・前年度より据置としております。

死差配当・・・前年度より据置としております。

利差配当・・・前年度より増配としております。

予定利率2%以下

1.75%－予定利率（前年度：1.65%－予定利率）

予定利率2%超、4%以下

1.55%－予定利率（前年度：1.45%－予定利率）

予定利率4%超

1.35%－予定利率（前年度：1.25%－予定利率）

消滅時などにお支払いする特別配当金

前年度に引き続き実施しておりますが、下記のとおり一部変更しております。

消滅時配当（責任準備金比例）・・・開始年度を1年繰り下げております。

消滅時配当（保険料比例）・・・前年度より据置としております。

疾病健康配当【新設】・・・今年度より新設しており、10年以上経過して消滅かつ給付金支払のない疾病保障特約等について入院給付金日額1,000円につき1,000円を配当いたします。

②団体年金保険

利差配当・・・前年度より増配としております。

予定利率1.00%

0.40%（前年度：0.10%）

予定利率1.25%（払戻調整金あり）

0.40%（前年度：0.10%）

予定利率1.25%（払戻調整金なし）

0.15%（前年度：0.00%）

○大同生命

①個人保険・個人年金保険

・利差配当は、前年度配当率を据え置きます。

予定利率2%以下

1.85%－予定利率

予定利率2%超、4%以下

1.65%－予定利率

予定利率4%超

1.45%－予定利率

・死差配当は、配当回数5回目以下の契約については、配当率を上げます。また、契約日からの配当回数が10回を超える更新後契約については、死差配当率を調整いたします。

・費差配当は、前年水準を据え置きます。

ただし、配当回数7回目以上で保険金額5,000万円以上の定期保険契約については、配当率を上げます。

・入院関係特約等に対する配当は、消滅時配当の財源を継続契約に対する通常配当に振り向け、通常配当の配当率を上げます。

・保険料比例特別配当および責任準備金比例特別配当は、前年水準を据え置きます。

②団体保険

・前年度配当率を据え置きます。

③団体年金保険

・責任準備金に対して0.05%の配当を実施します。

なお、予定利率は1.25%ですので、配当基準利回りは1.30%となります。

○T&Dフィナンシャル生命

①個人保険・個人年金保険

該当ありません。

②団体保険・団体年金保険

団体の規模、保険金支払実績等に応じて算出した契約者配当準備金を積み立てました。